

神大膜センター

膜工学の知見を共有

サロンで活発交流も

神戸大学先端膜工学研究センターおよび先端膜工学研究推進機構は9月24日、2024年度膜工学会秋季講演会・膜工学サロンを現地とオンラインの併用で開催した。

冒頭、松山秀人センター長・機構長がいさづに立ち「本センターは、教育研究、産学連携、国際交流の三つの役割を果たしている。国際交流の面では、今年新たに協定を結ぶ海外拠点が増え、11月には海外の先生方を招いてワークショップを開催する予定なので多くの方にご参加いただきたい」と呼びかけた。

水処理関連では、日立製作所水・環境ビジネスユニット経営管理本部技術開発部の花本陽介氏が「日立製作所における水

処理分離膜の事業展開」

と題し、同社の上水・下水分野での水処理分離膜を用いた製品を紹介。上水分野では、加圧式タイプと水位差ろ過タイプの2種類の浄水システムの特長を説明し、中でも水位差ろ過タイプは、濁度の高い原水に対応可能であり、「気候変動による急激な水質の変化にも適応できることから需要が高まっている」と強調した。

一方、下水分野では「日立仮設水処理ユニット」を紹介。同製品は単槽式の膜分離活性汚泥法(MBR)と高速凝集沈殿ユニットを単独ないしは組み合わせて使用する可搬式水処理装置で、小規模下水処理場の改築更新工事中の仮設水処理のほか、災害時に適用可能であるとの特長を説明した。RO膜を用いた海水淡水化装置の納入事例についても紹介した。

そのほか、経済産業省近畿経済産業局地域経済

部の黒田俊久部長が「関西経済の活性化に向けて」、広島大学半導体産業技術研究所の寺本章伸教授(研究所長)が「半導体産業の発展と資源回収の重要性」、熊本大学産業ナノマテリアル研究所二次元ナノマテリアル部門の國武雅司教授が「シリコンポリマーの階層的構造制御 形状記憶からCO₂選択分離膜まで」と題して講演をした。

講演会終了後、13会場で膜工学サロンを開催。水処理分野では、東レ水の黒田俊久部長が「関西経済の活性化に向けて」、広島大学半導体産業技術研究所の寺本章伸教授(研究所長)が「半導体産業の発展と資源回収の重要性」、熊本大学産業ナノマテリアル研究所二次元ナノマテリアル部門の國武雅司教授が「シリコンポリマーの階層的構造制御 形状記憶からCO₂選択分離膜まで」と題して講演をした。

した。



松山センター長